

## サロンでの気づき

サロンを訪問させて頂き、気づいたこと、聞いたことなど、お伝えしたいと思います。何かお役に立てれば嬉しいです。

新年あけましておめでとうございます。

今年の正月休みは暦の関係でゆっくり休まれたサロン様が多かったように思います。私も今年の正月はのんびり、ゆっくりと休んだ感じです。

近くの神社と三滝寺に初詣に行き、気分転換に近場で行ったことのなかった呉市の南東に位置する安芸灘諸島の島々を結ぶ7つの橋「安芸灘とびしま海道」にドライブに行ってきました。冬の青い瀬戸内の海を眺めながら、広島県生口島出身の平山郁夫氏が、ふるさと瀬戸内の「群青の海の色」を「自分の色」として仏教画で多用しておられたことを思い出しました。



船の後ろにしまなみ海道の来島海峡大橋が見えます。

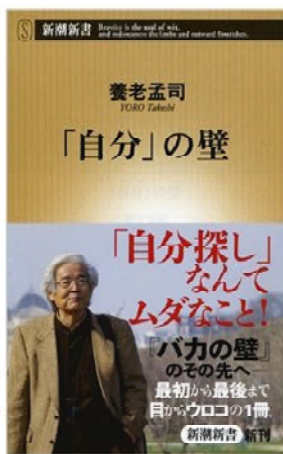
(大崎下島 御手洗地区より)

さて、今年は美容業界にとって良い一年にしていきたいですね。

先月の「たにくちだより」に『個性、自分らしさ』について取り上げましたが、ちょうど昨年末に読んだ養老孟司(ようろうたけし)著『「自分」の壁』に『個性』について書かれていたので紹介させていただきます。

戦後私たち日本人はずいぶん無駄なことをしてきたのではないかと、思ってしまうのです。

「個性を伸ばせ」「自己を確立せよ」といった教育は、若い人に無理を要求してきただけなのではないでしょうか。身の丈に合わないことを強いているのですから、結果が良くなるはずもありません。



それよりは世間と折り合うことの大切さを教えたほうが、はるかにましではないでしょうか。

こういう話をすると、「それでは世間や他人の顔色をうかがってばかりの人間だけになってしまうじゃないか」「それでは社会が前に進まないではないか」という人がいるかもしれませんが、世間に押し潰されそうになってもつぶれないものが「個性」です。

結局、誰も世間と折り合えない部分はでてきます。それで折り合えないところについては、ケンカすればいいのです。それで世間が勝つか、自分が勝つかはわかりません。

でも、それでも残った自分が「本当の自分」のはずです。「本当の自分」は、徹底的に争ったあとにも残る。むしろ、そういう過程を経ないと見えてこないという面がある。最初から発見できるものでも、発揮できるものでもありません。

日本の伝統芸能の世界は、そのことをよく示しています。入門した弟子は、まず徹底的に師匠の真似をさせられます。

「とにかく同じようにやれ」その過程が10年20年と続きます。そんなふうにしても師匠のクローンをつくることはできません。



どこかがどうしても違ってくる。その違いこそが、師匠の個性であり、また弟子の個性でもあります。徹底的に真似をすることから個性は生まれるのです。

弟子入りの最初の段階から「個性を伸ばせ」などと言っても意味がない。それは伝統芸能を学んだことがない人でも、ピンと来るのではないのでしょうか。(中略)

問題は、それぞれの人が個性を発揮するには、世間のほうがきちんとしていなければならないという点です。伝統芸能の例でいえば、師匠が基礎をきちんと学んで、そ

※裏面に続く

の道をきちんと歩んでいるからこそ、徹底して真似る甲斐があるわけであって、でたらめな人だったら、どうしようもありません。(中略)

本来は、人生はどうやって生きていけばいいか、といったことについての世間の基準、ものさしがあるべきなのに、それが揺らいでしまっている。そのくせ「個性を持つ」だから、若い人がわけもわからず「自分探し」をしたがるというのが現状です。これは気の毒に思えます。実際には、「本当の自分」なんて探す必要はありません。「本当の自分」がどこかに行ってしまうとして、じゃあ、それを探している自分は誰なんだよ、という話です。

この本の最後の一文です。「なにかにぶつかり、迷い、挑戦し、失敗し、ということを繰り返すこととなります。しかし、そうやって自分で育ててきた感覚のことを、「自信」というのです。」

大河ドラマ『花燃ゆ』がはじまりましたが、人生はどうやって生きていけばいいか、といったことについての世間の基準、ものさしが作中に出てくる台詞の中にあると思いますので紹介します。



寅次郎の一番好きな言葉として紹介される孟子の言葉。「至誠にして動かざるは、未だこれに有らざるなり」は、(真心を尽くせば、為せぬことはない。気持ちはず必ず伝わる)とてもいい言葉だと思います。

また、「人は、なぜ、学ぶのか?」ということに対して、寅次郎は「己のためじゃ。己を磨くために、人は学ぶんじゃ。」と。また伊之助は「この世のために、己がすべきことを知るために学ぶのです。」と。

見ていてとても感動しました。これからの展開が楽しみです。

当社もお客様に真心を尽くし、なにかにぶつかり、迷い、挑戦し、失敗し、ということを繰り返しながら成長していきたいと思えます。本年も宜しくお願い致します。

毎年、年明けにカラオケを一曲覚えるのですが、今年はハウス北海道シチューのCMで流れる『さだまさし』の『家路』です。お客様にとってサロンに行く道のりが、温かい家に帰る路のようであれば嬉しいです。歌詞を紹介させていただきます。

### 作詞・作曲：さだまさし

銀色の坂道を超えたら  
白い冬の寒さに耐えて  
君の笑顔をまもる為に  
自分自身が強くなること

君の待つ窓が見える  
君の温もりに帰ろう  
今僕に出来ることは  
心も愛も力も

ときめきよりも暖かく  
激しさより優しさを  
抱きしめるよりそばにいて  
寄り添うような愛がいい



銀色の坂道は険しく  
終わらない坂道などない  
もしも夢に届かなくても  
小さな歩幅で構わない

果てしなく続くけれど  
必ず君に帰ろう  
近づくことなら出来る  
歩いて行こうと思う

白い白い冬の大地を  
碧(あお)く抱きとめる大空  
君の笑顔があればいい  
今日も明日も  
そう未来も



ときめきよりも温もりを  
激しさより優しさを  
抱きしめるよりそばにいて  
寄り添うような  
君に帰ろう

昨年末にビッグニュースが入ってきました。

ヤンキースの黒田投手が  
カープに帰ってきます。  
本当に楽しみです。  
今年こそは優勝して欲しい  
ですね。

